

頂上へと続く

—ソルベンシーII導入に向けて—



【ポストマガジン2月25日号】どんな規制であれ、新しい規制の枠組みを実施することは、いつでも挑戦を生むものである。そして最終細目まで決まっていらないという事実とあいまって、ソルベンシーIIの規模から考えると、こうした挑戦が大きなものになることはほとんど間違いない。

「誰もがソルベンシーIIの準備に集中しており、成し遂げるためにはどのくらいの量の仕事が必要になるか、人々は気づき始めている。これはわれわれが最初に予想したものよりずっと大きい」とアリアンツ財務取締役のジョージ・ストラトフォード氏は語る。

英国は個別自己資本比率(ICA)によって、ほかの欧州連合(EU)の国々比べてより良い状況にあるが、プロジェクトの規模はやはり手むかいものである。ITシステムや資本モデルおよびコンプライアンスを実現するために注意を

要する文書化作業と同様に、新体制が企業文化の中にうまく埋め込まれるよう、会社は従業員の積極的な参画を促すに確保するかに取り組むことになる。プロジェクトの規模自体が挑戦を生むことになる。必要な人材を集めることは、顧客へ提供することを改善するための継続が必要なものの一つであるが、ビジネス上、人材に対して複数の競合的な要求事項があるべきなものである。とエクリシステカ保険の団体リスク・数理解括取締役ベン・ボ

当初予想より大きな挑戦になることが判明しつつある

ていることで、保険会社は同程度に重要なことを見過ごしているかもしれない。ストラトフォード氏は考えている。「ソルベンシーIIが動き始める、大量のメンテナンス業務が必要になる。多くの人はこれをプロジェクトと見ていて、いつか終わるとしてしまっている。多くの人はこれをプロジェクトと見ていて、いつか終わるとしてしまっている。多くの人はこれをプロジェクトと見ていて、いつか終わるとしてしまっている。」

「最大の困難は、バーゼルIIIのリスク・企業統括指針のアップデート、ラッセル氏らによって、最大の困難をも

たらすと予想されるのは、多くの日替的な要因である。「文書類が挑戦課題となる。要求されるものがまだ分かっておらず、何をなすべきかを理解するのが難しいし、それを与えるための適切な人材を見つけることも、また同様である」と同氏は言う。確かに現在のICAと体制作りについては、プロセスと業務慣行がまだ限定的である。この状況を改善するには、より詳細なものが必要となる。これは情報セキュリティをまもる多くの人材だけでなく、ITシステム

部を手入れに受け入れられるものをまだ知らない。英国の金融サービス機構(FSA)からもらった情報があるのを待っているが、数日以内に意見を待たせ、それを示すのは疑わしいと同氏は認める。

「この注言すべきは給与上昇を引き起こしており、それは2016年問題の再燃で起きる。最終期限が近づくと、リスクモダリティのアクチュアリーに対する需要は増大するようになる。保険会社がICAとISRSに含まれる要素を理解し始める、信頼は確実に増加する」とストラトフォード氏は言う。だが、誰もが主要な問題となる議論して、るわけではない。リバー、シンジケートの財務担担役員シモン・タン氏は、採用は予想したほどの挑戦にはならないだろうという。候補者、特にトレーニングの職務に対しては、バーゼルIIに取組んで価値ある経験を組んで銀行業から来たばかり、大学から出てきた人々、

ーク氏は言う。プロジェクトの大きさを結果から示す氏は、すべての規制を理解する必要がある。この挑戦は、今でも進化しつつあり、そしていまは大量のデータ・アナリストやコンサルタント・ソリューション・サービスが中心の役割を担っている。この役割は、すべてが継続して進むと、プロセスに組み込まれるべきかを確保するものが挑戦となる。この準備は、2016年10

を持つ人は多い。新しい規制の枠組についての最終規則は、欧州保険・年金監督者会議(EIOPA)の第5次量的影響調査報告書が出される後の11年までに、入手できないだろう。なお同会議の調査は、10年の8月から10月にかけて実施されることになっている。

同様に、分かっていることの中には別の頭痛の種が潜んでいる。内部モデルの承認については、同管理表はあく文書化されているが、何が規制当局の要求に合うか、もしも合わないかについて、誰かが悩んでいる。EIOPAの企業リスク管理部門長であるヤクステイン・スナナ氏は、こうしたことがプロジェクト領域決定を難しくしてきている。

「最大の困難は、バーゼルIIIのリスク・企業統括指針のアップデート、ラッセル氏らによって、最大の困難をも

「最大の困難は、バーゼルIIIのリスク・企業統括指針のアップデート、ラッセル氏らによって、最大の困難をも

最大の困難

最大の困難は、バーゼルIIIのリスク・企業統括指針のアップデート、ラッセル氏らによって、最大の困難をも

最大の困難は、バーゼルIIIのリスク・企業統括指針のアップデート、ラッセル氏らによって、最大の困難をも

最大の困難は、バーゼルIIIのリスク・企業統括指針のアップデート、ラッセル氏らによって、最大の困難をも

最大の困難は、バーゼルIIIのリスク・企業統括指針のアップデート、ラッセル氏らによって、最大の困難をも

最大の困難は、バーゼルIIIのリスク・企業統括指針のアップデート、ラッセル氏らによって、最大の困難をも

最大の困難は、バーゼルIIIのリスク・企業統括指針のアップデート、ラッセル氏らによって、最大の困難をも

最大の困難は、バーゼルIIIのリスク・企業統括指針のアップデート、ラッセル氏らによって、最大の困難をも

最大の困難は、バーゼルIIIのリスク・企業統括指針のアップデート、ラッセル氏らによって、最大の困難をも

ソルベンシーIIの実施 —ケーススタディー—

ソルベンシーIIのタイムリーな実施を確実にするために、エクリアステカル保険は社内専任プロジェクトを設置し、指令に対する準備と実施を監督するために、外部からプロジェクト・マネージャーを雇った。エクリアステカル社の団体リスク・数理担当取締役のケビン・ボーク氏は、この専任プロジェクト・マネージャーを連れてきた理由を「われわれはこの採用が、プロジェクトの成功にとって要となることを早くに理解した。これは常勤の職位であり、専任の人材でなかったらそれに値する関心はひかなかっただろう」と説明する。

ボーク氏は以下のように付け加える。

◆「プロジェクト・マネージャーはテクニカル・アドバイザーから支援を受けるが、一方、テクニカル・アドバイザーはプロセス全体を展望するとともに、組織全体にわたって実行される作業を束ねる責任を持つ。プロジェクトは①企業統治②内部モデル③準備金積立④財務報告と情報開示⑤データ管理—の5つの内部作業の流れに分けられ、これらの分野から来た専門家の助けで実施プロセスが決定されるとともに、引き続きより広範なチーム内で作業がなされる。このことは、プロジェクトがほかの業務部門からあまりにかけ離れないようにしたり、日常の作業慣例と連携を保つようにしたりするのに役立つ」

◆「一例として、この方法はすべてのソルベンシーIIの情報やコンサルテーション・ペーパーを、自分の分野で応用できる要件や規制を解釈する責任があるそれぞれの作業の流れのリーダーに広めるのに大変有効であることが分かった」

◆「数人の会社の上席取締役から成るプロジェクト運営委員会が、プロジェクト全体を監督している。この高いレベルでの支援により、プロジェクト実施は組織内のすべてのレベルから支援され、積極的に関与されることを確かなものとする」

「一例として、この方法はすべてのソルベンシーIIの情報やコンサルテーション・ペーパーを、自分の分野で応用できる要件や規制を解釈する責任があるそれぞれの作業の流れのリーダーに広めるのに大変有効であることが分かった」

◆「数人の会社の上席取締役から成るプロジェクト運営委員会が、プロジェクト全体を監督している。この高いレベルでの支援により、プロジェクト実施は組織内のすべてのレベルから支援され、積極的に関与されることを確かなものとする」

◆「数人の会社の上席取締役から成るプロジェクト運営委員会が、プロジェクト全体を監督している。この高いレベルでの支援により、プロジェクト実施は組織内のすべてのレベルから支援され、積極的に関与されることを確かなものとする」

◆「数人の会社の上席取締役から成るプロジェクト運営委員会が、プロジェクト全体を監督している。この高いレベルでの支援により、プロジェクト実施は組織内のすべてのレベルから支援され、積極的に関与されることを確かなものとする」

◆「数人の会社の上席取締役から成るプロジェクト運営委員会が、プロジェクト全体を監督している。この高いレベルでの支援により、プロジェクト実施は組織内のすべてのレベルから支援され、積極的に関与されることを確かなものとする」

保険毎日新聞社のホームページ http://www.homal.co.jp

いくつものロイスンシゲートもまた、人員増強は示唆されてきたほどの問題にはならないだろうと考えている。ロイスンが会員に対して締め切りより前に十分に準備するよう勧告を出していたことで、会員はこの問題を

果、ほとんどの会社では、できるだけ多くの作業要員に開与させようとして、プロジェクト内での作業を多めるの従業員に開与させている。これは異なる形を

積極的な取り組みを確保する。しかしながら従業員を雇用するのは、いつでも容易なことではない。ソルベンシーIIはほとんど全員のスタッフに影響を及ぼすが、多くの者は無味乾燥な話題だと思つて

多くの会社で、プロジェクトをコンプライアンス要件というより経営計画プロジェクトとしてみるのが好ましいとしており、そのためプロジェクトの運営方法もまた、組織内の認知方法に影響を与えることになる。ダン氏は説明するよう

「8面からつづく」
「本部はこれから金をもうけようとしてくれる」と彼女は言う。「採用コンサルタントに追いかけてくれる人はたくさんいるが、本当に需要があるのだろうか。ソルベンシーIIの作業遂行のために、自社内にそんなに多くの新人を取り込むことは意味があるのだろうか。業務をよく理解している人だ」

回廊していったようだ。ラッセル氏は「ロイスンが12年近くにつれて、いくつもの問題に対処できるような締め切りを早めてくれたのは良かった」と認めている。

ソルベンシーIIが、保険会社の多数のビジネス分野と密接な関係を持つのは明らかだ。その結果、知を高めるための説明会を

ロイスンと担当役員とのミーティング・シールド氏は話す。取締役会レベルでの取り組みをきわめて重要で、多くの会社では、こうしたことが現れるような手段を講じている。「ビジネスと上席役員から支援を受ける必要がある。そうすることで適切な開与することになる

ロイスンと担当役員とのミーティング・シールド氏は話す。取締役会レベルでの取り組みをきわめて重要で、多くの会社では、こうしたことが現れるような手段を講じている。「ビジネスと上席役員から支援を受ける必要がある。そうすることで適切な開与することになる

ロイスンと担当役員とのミーティング・シールド氏は話す。取締役会レベルでの取り組みをきわめて重要で、多くの会社では、こうしたことが現れるような手段を講じている。「ビジネスと上席役員から支援を受ける必要がある。そうすることで適切な開与することになる

ロイスンと担当役員とのミーティング・シールド氏は話す。取締役会レベルでの取り組みをきわめて重要で、多くの会社では、こうしたことが現れるような手段を講じている。「ビジネスと上席役員から支援を受ける必要がある。そうすることで適切な開与することになる

間に合うように準備を進めているのはどの会社か

ロイスンと担当役員とのミーティング・シールド氏は話す。取締役会レベルでの取り組みをきわめて重要で、多くの会社では、こうしたことが現れるような手段を講じている。「ビジネスと上席役員から支援を受ける必要がある。そうすることで適切な開与することになる

保険毎日新聞社のホームページ http://www.homal.co.jp